

大学生の大学評価とセルフ・イメージ

東洋大学の日本人学生と外国人留学生を比較して——(予備調査報告)

杉山憲司 石垣貴千代 斎藤里美

sugiyama kenji

ishigaki kichiyo

saito satomi

1 学生による大学評価の必要性

1-1 大学構成員としての学生の位置

私立大学は教員(教学)、職員(事務)、学生(学習)、法人(経営)の4要因で構成されている。しかし、組合的発想に立てば、教職員を一括してくり、法人と対立する構図となる。法人には教員理事の参加があり、法人側に立って予算策定に当たる職員や、法人と教学の中間に位置し、中立的立場で両者の仲介に当たる教務課職員もいる。この中にあって教員は研究と教育を担う教育的資源であるが、伝統的な大学文化を背景として教育が軽視される傾向が指摘されている。しかし、学問研究は効果的な授業と対立するものではない。むしろ現在、「教授団開発(faculty development)」として大学教育の活力が問われているのは、学生の入学目的や質の多様化、教育内容の国際化、情報化を受けて、教育方法の改善と教育の活性化が必要になってきたためと考えられる。基より、授業内容や方法の改善は教員の責任であるが、それは職員や学生と共同して行う必要がある(有本、1989)。以上を踏まえた上で、本研究で問題にしたいのは大学構成員としての学生の位置である。学生ないし保証人としての父母は授業料の納付者として、大学を経済的に支え、同時に、大学卒業資格を取得する受益者であり、且つ、学生は学ぶ権利の主体でもある。これらは自明なことであろうが、教室での師弟関係において授

今田好彦は、平成7年度在外研究のため執筆者に加わっていないが、共同研究者である。

業について質問し、意見を言う以外に、大学の構成員として、大学の方針決定や情報がどの程度開示され、意見を言う場が確保されているであろうか。

大学が教育機関である以前に、コミュニティとして機能するためには、構成員間のコミュニケーションと相互批判が实际的に機能し、緊張関係にあることが不可欠ではなかろうか。しかしここで、学生消費者論(D. リースマン、1986)を展開する意図はない。学生を、単に、教育サービスを買う消費者・顧客と位置づけることは、学生のコミュニティへの参加を部分的なものとする危険がある。つまり、教育に関わる計画や運営から学生を排除し、消費(授業を受けること)と授業評価のみに加わるという一面的参加に止めることになる。学生は消費者という受動的に教わる者から、主体的に学ぶ者となるよう手助けすることこそが、現在、教員に求められていると言えよう。今後、教育機関は製造物責任ならぬ、教育効果に対する評価としての卒業生責任(accountability)が問われて来ると考えられる。このような視点から学生を考えると、①学生は大学の社会的威信の根源であり、大学の存在基盤そのものである。②その学生に対して、情報を公開し、意志決定・教育事務・教学内容に対して意見が言える場を確保し、構成員にふさわしい位置づけを与えることが大学評価を左右する要因になろう。しかし、③学生の意見が常に正しいわけでも、実現可能なわけでもない。学生による講義評価に限っても、評価は第一次資料であって、教師の資質に対する最終的な判断材料と考える必要はない(太田 1992)。

以上の諸点を考慮すると、教員は学生が大学に何を求め、現在の大学に満足しているのか否かを把握し、学生の見方が身勝手に無責任ならば、そのことを伝えて反論し、可能な主張ならば、現状を改善することこそが最も建設的であろう。母校を否定的に捉えたまま、卒業生として送り出すことは、大学が自ら社会的威信を低下させることになる。これは同

時に、大学コミュニティに学生を参加させていないことであり、計画・行動・評価（plan do check）の体制を整えずに放置することは、教員や職員もまたコミュニティに参加していないことの一つの現れといえよう。大学を社会的に支える外部社会の支持なしに、大学が生き残ることは、今後ますます困難になると思われる。

1-2 東洋大学生についての研究の必要性

われわれが井上円了センター研究員として、大学論部会に応募した理由は、本学に大学教育研究センターがなく、自己の研究領域や研究テーマとは別に、いわば研究・教育サービスの一つとして、東洋大学生についての研究をしたいと考えたからである。その背景には、我々は教員として日々学生に接しているが、ともすると授業に追われ、学生一人一人の個性や学習動機、価値観などをどの程度把握しているか疑問だとの思いがあった。

大学生についての研究と言っても、例えば、①学生による講義評価や学習実態。②多くの大学の中から、如何にして最終的に一つの大学を選ぶかという大学選択（college choice）。③当該大学が高等教育機関としてどのようなタイプと見なされ（天野、1994）、教育の主要な目標をどこに置いているか（喜多村、1988）という大学の類型化。④偏差値のような受験競争が決める外的な基準ではなく、授業内容や教育条件に対する学生の満足度や不満点の把握（例えば、リクルート 1992）など、多様なテーマが考えられる。これらの内、東洋大学生を対象とした研究としては、例えば、授業評価（太田 1992、稲木 1994）、学習実態（杉山・柴田 1989）、大学生活（稲木 1995）等の研究がある。

留学生については、外国人留学生は日本人学生よりも授業に主体的な参加態度を示すという報告（藤埴 1989）や、対日イメージとの関係を分析した研究（岩田・萩原 1988）がある。これらの内、東洋大学の留学生

については社会学部留学生委員会(1996)、広報課(1996)等の報告がなされている。

今後の大学教育の活性化を考えるならば、無気力で、受け身で、目的意識がないと言われる現代の学生に、①講義に興味を持たせ、自己価値を認識し、相互に支え合う対人関係の中で、豊かな学生生活を送る条件を明らかにすること、②国際化を背景として、多様な文化の中で、相互に学び合う異文化接触(渡辺 1995)を通じて、双方に肯定的な結果をもたらす条件、即ち、文化の共生の視点を育てることの2点は、少なくとも不可欠と考えている。従って今回、留学生を調査対象に含めることによって、アジアの近隣諸国の青年の考えも含めた、より多様な視点から、東洋大学の姿を明らかにすることが出来ると期待した。

1-3 本研究の目的

本研究は3年次に渡る継続研究であり、全体として、この研究は大学のあり方や教育内容を検討するに当たって、大学の方の主体である学生に焦点を当て、(1)入学の目的ないし動機が多様化しつつある学生の姿を学習動機、対人関係などの諸側面に渡って調査し、学生が大学に何を期待し、あるいは大学生活から何を得ているかを、学生の意識を通して明らかにする。(2)学生が自分自身及び自分が所属する大学の学生をどう評価し、友達に何を期待しているかを、学生の意識を通して明らかにする。最終的には、(3)大学に対する評価や要求を学生のセルフ・イメージとの関係で分析することが目的である。更に、(4)日本人学生と留学生を比較し、文化的背景と大学評価・自己評価がどのように関係しているかについて検討することを目的としている。

2 予備調査の目的と方法

2-1 予備調査の目的

今回は研究初年度に行った、調査票の作成と予備調査の実施の中間報告を通して、調査票の項目の選択、質問文の表現等を検討し、本調査用の調査票を作成することが目的である。

2-2 予備調査票の構成

大学に対する評価として、①心理的要因（Ⅰ、大学のイメージや社会的評価8項目）、②物質的要因（Ⅱ、大学の校舎や施設、立地条件11項目）、③カリキュラム要因（Ⅲ、講義内容や履修制度10項目）、④学生生活要因（Ⅳ、サークル、大学間交流などのキャンパスライフ支援13項目）、⑤進路指導要因（Ⅴ、就職や資格取得などの進路選択支援10項目）、⑥教職員要因（Ⅵ、教員や職員の特質や学生に対する姿勢8項目）。学生の自己評価として、⑦学生要因（Ⅶ、学生の学習動機や受講姿勢10項目）。それに、⑧Ⅷ、総合的評価 8 項目の合計78項目である。各項目の選択肢は 1）非常にそう思う、2）ややそう思う、3）どちらでもない、4）あまりそう思わない、5）全くそう思わないの 5 段階評定である。更に、調査対象者の属性12項目、各項目の補助質問（S Q）と自由記述（F A）を求める質問が50問あり、合計128問で構成した。調査票は資料として添付した。

2-3 調査対象者の特性

調査は日本人学生69（男子38、女子31）名、留学生41（男子20、女子21）名、国籍未記入者 3（男子 2、未記入 1）名の合計113名を分析対象とした。留学生の国籍は中国29名、韓国 9 名、台湾 3 名である。

3 予備調査結果の概要

結果の執筆に当たっては、3-1評定値の集計は杉山、3-2-1～3-2-3の自

由記述回答は斎藤、3-2-4～3-2-7の自由記述回答は石垣、3-2-9のこの調査に対する意見は杉山、3-3多変量解析とまとめは杉山がそれぞれ担当した。

3-1 評定値の単純集計結果と項目修正への示唆（担当：杉山）

分析結果は日本人学生と留学生別の平均値、標準偏差、平均値の差の検定結果を、添付した調査票に記してある。結果の考察に当たっては検定結果に加えて、平均値の3を基準に、以上を肯定的、未満を否定的として比較した（以下同様）。

3-1-1 心理的要因

I. 大学のイメージや社会的評価の結果から、東洋大学の肯定的イメージを支えているのは「諸学の基礎は哲学にあり」との建学の精神と、学部を持つ特色や個性であり、この点は日本人学生と留学生は共通している。大学にアカデミックな雰囲気があるか否かについては留学生は肯定的、日本人学生は否定的と有意な差が認められた。

3-1-2 物質的要因

II. 校舎や施設、立地条件の集計結果から、東洋大学の校舎や施設については日本人学生が否定的、留学生が肯定的と対称的な違いが認められた。日本人学生と留学生に共通した答えは、校外施設は整っているとの肯定的評価と、逆に、校舎への交通の便が悪く、シンボルとなる建造物がないという否定的評価についてである。

3-1-3 カリキュラム要因

III. 講義内容や履修制度の集計結果から、少人数ゼミへの参加と履修要覧については、日本人学生も留学生も共に、肯定的に受けとめている。しかし、教師との個人的接触やコミュニケーションが取れるか、授業中に教員が学生との接点を求めているかについては、何れも否定的である。日本人学生と留学生が異なるのは講義の内容や評価、履修制度等について

てで、何れも留学生の方が日本人学生より肯定的に答えている。

3-1-4 学生生活要因

IV. サークル、大学間交流などのキャンパスライフ支援の集計結果から、日本人学生と留学生に共通しているのは、食堂、教員とのコミュニケーション、東洋大生としての一体感、下宿やアルバイトの紹介、大学間交流、大学に意見を表明できる場があるという項目に対して、何れも否定的な意見を持っている。反面、奨学金制度と友達関係については肯定的である。日本人学生と留学生の違いに目を向けると、留学生は大学の広報活動を肯定的に評価しているが、サークルやクラブ活動にはあまり参加していないと答えている。

3-1-5 進路指導要因

V. 就職や資格取得などの進路選択支援の集計結果から、進路指導については、他の要因より肯定的に答える傾向が強く、この傾向は特に留学生に顕著である。中でも就職に際して、所属学部や学科、学生生活で得たもの、就職適性テストは役立つと、日本人学生・留学生共に肯定的に受け止めている。しかし、資格取得や検定試験支援、就職指導、先輩の就職先、大学院進学指導については、日本人学生は留学生より否定的評価をしている。

3-1-6 教職員要因

VI. 教員や職員の特質や学生に対する姿勢の集計結果は、残念ながら、教員と職員の学生に対する姿勢について、日本人学生は何れも否定的評価をしている。対照的に、留学生は、教員については教育熱心な教員、研究熱心な教員がいると肯定的な判断を示し、職員についても、公平で公正な職員、知識や経験が豊富な職員、指導内容が的確な職員が多いと、留学生は肯定的に判断している。

3-1-7 学生要因

VII. 学生の学習動機や受講姿勢の集計結果は、部活動や趣味について

の項目10を除いて、自分の学習動機や受講姿勢を、日本人学生・留学生共に、肯定的に評価している。特に留学生は、出席、着席位置、図書館利用についても、内容をよく聞き、自分の意見を持っているという受講姿勢についても、専門知識を身につける、教養を身につける、体験を重視するの何れの学習動機についても、日本人学生より肯定的な自己評価をしている。唯一の例外は、留学生は部活動や趣味のために多くの時間を使っていないことである。

3-1-8 総合評価

VIII. 大学評価、自己評価各々についての総合的評価の集計結果は、I～VIIの各々の調査枠組みに対する総合的判断項目であるが、そのような総合的な評価指標となっているか否かは、後述する因子分析の結果を待つ必要がある。従って、ここでは総合評価8項目の結果を単独に検討した。その結果、総合評価項目の内、自分の学習活動とキャンパスライフについての自己評価は日本人学生・留学生共に肯定的であった。次に、大学イメージ、校舎や設備、教員の特質、職員の姿勢については、日本人学生より留学生の方が肯定的捉え方をしている。東洋大学生一般に対する評価は、日本人学生・留学生共に、東洋大生は学生として十分な努力をしていないと、仲間の学生に対して厳しい、否定的な見方をしている。

3-1-9 全体的考察と項目修正への示唆

この調査の目的は大学や自己に対する学生の意識や行動を把握し、大学のあり方を再考して、教員の立場から可能な対処法を見出すための資料とすることである。この視点から考察すると、①平均値で比較する限りでは、留学生の方が日本人学生より大学評価、自己評価（学生要因）共に肯定的であった。この結果が、異なる文化・社会を背景とした評価基準の違いによるのか、それとも同じ基準上での評価値の違いなのかについては、本調査においては、自由記述回答との関連を分析することに

よって、明らかに出来る。②セルフ・イメージについては、この調査では学生の自己評価要因のみで構成され、内容的にも進学動機や受講姿勢に限られていた。そこで、本調査では、自己価値感や人間関係を作れるか等の項目を追加し、学生のセルフイメージを総合的に捉えた上で、大学評価との関係を分析出来るようにする必要がある。③キャンパスライフについて、留学生はクラブ活動にあまり参加せず、友達も少ないとの答えであった。これは傾向としては予測できた回答であるが、それだけに本調査においては、留学生のキャンパスライフを豊かにする方策、日本人学生と留学生が相互に学びうる交流の場についての質問項目を追加する必要がある。④施設や立地条件についての項目には、教員としては対処法に結びつけることが困難な項目や質問の仕方が含まれていた。対処法に結びつけられるような項目に変更する必要がある。⑤建学の精神など、一部に、大学一般には適合しない項目が含まれていた。他大学生も調査対象とする本調査に向けて、他の大学生にも合うよう変更する必要がある。⑥一部にわかりづらく答えに迷う項目、例えばⅢの8の「授業の中で、教員は学生との接点を常に求めている」や、調査枠組みに不適切な項目、例えば学生要因（Ⅶ）の9「色々な友達を作るために努力している」、10「部活動や趣味のために多くの時間を使っている」は、むしろキャンパスライフ要因とも考えられる。この点については、後述する多変量解析の結果を見て、項目としての適否、どの要因に所属するか判断をする必要がある。⑦評定項目と自由記述項目との関係は、今後行われる本調査において、自由記述項目のアフターコーディングを行った上で統計的に関連性を分析することになる。（以上担当：杉山）

3-2 自由記述回答の結果および分析(3-2～3-2-3までは担当：斎藤)

この予備調査では、合計52項目におよぶ質問の中で自由記述回答を求めた。これらは各質問の目的からおおよそ三種類に分類することができ

る。第一のものは、いわゆる「補助質問」(サブ・クエッション)と呼ばれているものである。予備調査の中でこれらを設定したねらいは、質問文の中のキー概念となる言葉、たとえば「社会的評価は高い」という質問の中の「社会的評価」、「校風に魅力を感じる」という質問の中の「校風」などに対して、回答者がどのようなイメージを抱いているかを調査するためである。

自由記述を求めた質問の第二のタイプは、I からVIIに大分類した各要因の総合的評価を左右するものは何かを問うものである。たとえば、「上記以外に学習環境が快適だと思うのはどんな点ですか、自由に書いてください。」などがそれに当たる。この調査では、あらかじめ各要因の構成要素として8～10項目の質問を用意し、それらについて5段階の評価を求めたが、回答者がこれらの数量化された質問には該当しない何らかの要素で、大学や学生に対する評価を下している可能性もありうるからである。大学評価を学生の視点から行おうとする場合、学生の評価の観点が調査者の視点からもれる可能性があり、この点で、自由記述を求めることの意義は大きい。

自由記述を求めた質問の第三のものは、この予備調査そのものに対する意見を求めたものである。調査そのものに対して学生に意見を求めるということは、アンケート調査という形の大学評価に対して学生が参加することの是非を問うものであると同時に、参加する側の学生の意識や評価の観点が問い返されることでもある。つまり、学生は大学について質問されていると同時に、大学に学び、大学評価に参加する主体としての自分の位置を問われているのである。

学生による大学評価を大学教育全体の活性化につなげるためには、学生が単に大学に点数を付けたり、意見を述べたりするだけの一面的な「コミュニティ参加」は避けなければならない。なぜなら、自らが学ぶ場としての大学はどのような大学が望ましいのかを一人一人の学生が考え、

そうしたコミュニティづくりに学生自身が参加することなくして、大学のコミュニティとしての改革はなしえないからである。

以上のような意味で、学生の大学評価に対する意識を喚起するためにも、できるだけ自由記述質問を多く設定した。以下、自由記述からどのような情報が得られ、どの程度学生の意識を喚起しえたかという観点から分析してみることにする。

3-2-1-a 「社会的評価」(4のSQ)「校風」(5のSQ)「学部の特色・個性」(6のSQ)、「教員の社会的活躍」(7のSQ)「卒業生の活躍」(8のSQ)に対する回答

複数の回答者から得られた典型的な回答をあげ、それらの共通点をさぐってみよう。

まず日本人学生の場合には、「社会的評価」に対しては「日東駒専」、「校風」に対しては「地味」「校風を感じない」、「学部の特色」に対しては「いろいろな学科や専攻がある」、「教員の社会的活躍」に対しては「テレビで活躍」、「卒業生の活躍」に対しては「植木等」などの回答が多い。これに対し、外国人留学生の場合には「社会的評価」に対しては「歴史のある大学」、「校風」に対しては「素朴」「自由」、「学部の特色」に対しては「よくわからない」、「教員の社会的活躍」に対しては「学会参加」、「卒業生の活躍」に対しては「わからない」などの回答が多い。

両者を比較対照してみると、日本人学生の場合には、すべての項目にわたってマスコミや世間の評判などでつくられた既成のイメージがそのまま学生自身の大学イメージに置き換えられていることがわかる。一方、そういった情報を日本人学生に比べて得にくい立場にある留学生は、自らの印象や判断で大学のイメージをつくろうとしていることがわかる。しかし、両者の違いはマスコミや世間との接触の多寡だけではなく、評価というもっとも人間の主体的な価値認識の行為を他者に委ねることが自らの自律性を守る上でどのような意味をもつか、また、それぞれの学生がそれをどのように自覚しているかという点である。

今後大学評価の一環として学生に大学のイメージを問う場合には、回答者がどの程度自らの判断にもとづいた主体的な大学イメージを形成しつつあるか、またそのことが大学生としてどのような意味をもつと思うかを問うことが重要な意味をもってくるであろう。

3-2-1-b 「東洋大学のイメージアップにつながっている要素」「東洋大学のイメージダウンにつながっている要素」「東洋大学のイメージアップに何を期待するか」
(IのFA) に対する回答

まず、「イメージアップ」に対する日本人学生の回答の中で最も多いものは「野球などのスポーツが強い」、次に多い回答が「哲学を学べる」「学費が安い」などである。これに対し、同じ質問に対する外国人留学生の回答では、第一に「優秀な学生と先生」、第二に「教員や学生の社会的活動への参加」である。

また、「イメージダウン」に対する日本人学生の回答では「校舎、教育施設の貧弱さ」「個性のなさ」をあげる者が多く、留学生の回答では「学生の質」「卒業生が社会で活躍しているかどうか」をあげる者が多かった。

さらに、「これからの東洋大学のイメージアップに何を期待するか」に対しては、日本人学生は「校舎・施設等の充実」「大学の個性の明確化」などが多いが、少数意見として「教員・卒業生・学生の社会的貢献」「高校生や地域の人にもっと大学を利用できるような機会をつくること」などの回答もみられた。これに対して留学生は「学生がもっと勉強する」「授業内容の充実」「卒業生の社会的活躍」などをあげている。

これらを総合してみると、日本人学生の考える「大学のイメージ」とは、その多くが社会的知名度であったり、校舎・施設であったりするが、留学生の考える「大学のイメージ」とは、学生がそこで何を学ぶうるかという教育の内容と質に直接かかわるものである。この点で日本人学生と留学生はまったく対照的である。その背景には、学歴が一種の身分証明書として機能するいわば「閉じたコミュニティ」日本での生活を前提

とする日本人学生に対し、国際社会という「開かれたコミュニティ」で、実力次第でチャンスを切り拓いていくことが前提となっている留学生という違いがあろう。しかしながら、一方で日本人学生の中にも、「教員・卒業生・学生の社会的貢献」さらには「無理してイメージアップをはかる必要があるのだろうか。(中略)そう思うことですすでに余裕がなくなって、結局からまわりしているのではないだろうか」などの回答があったことも見逃せない。

つまり、大学イメージ＝社会的知名度という通念に対して疑問をもち、それを切り崩したいと願う学生の意欲を喚起し、学生自身がイメージ形成の担い手であることを意識化させる作業が、いま大学に求められている。学生の一人一人が大学のイメージ形成を担う一員だという自覚を呼び覚ますためにも、「今後東洋大学のイメージをあなた自身がつくっていくとしたら、どのような努力が必要だと思いますか」のような質問文を増やしていくことが今後の課題であろう。

3-2-2-a 「シンボルとなる建造物」(4の SQ)「自由に話し合える空間」(5の SQ)「校外施設の利用上の問題」(10の SQ)「健康増進施設の利用上の問題」(10の SQ) に対する回答

まず日本人学生の場合であるが、「シンボルとなる建造物」に対しては「四聖人の像」、「自由に話し合える空間」に対しては「図書館」、「校外施設の利用上の問題」「健康増進施設の利用上の問題」に対しては「誰でも気軽に使えるようにしてほしい」などの回答が見られた。これに対し外国人留学生の場合には「シンボルとなる建造物」に対しては「四聖人の像」、「自由に話し合える空間」に対しては「芝生」、「校外施設の利用上の問題」「健康増進施設の利用上の問題」に対しては「遠い」「よくわからない」などの回答が見られた。

ここで大学評価の一環として学習環境の快適性をとりあげたのは、学生が大学という場所を集団における人格形成の場として認識し、また活

用しているかを明らかにするためであった。しかし、残念ながら回答は、学習活動以外に行われる学生間のコミュニケーションやインターアクションを必ずしも反映していない。つまり、大学が学生のコミュニケーションを促進する場となりえていないのか、それともそもそも現代の学生が大学にそのような場を求めているのか、この回答からだけでは特定できない。今後は「大学で学習活動以外にどのような活動をしたいと望んでいるか」「現在どのような活動に取り組んでいるか」「そのためにはどのような施設・空間を望んでいるのか」などの質問を設定することで、これらの問題を明らかにすることができるであろう。

3-2-2-b 「学習環境が快適だと思うのはどんな点か」「学習環境が快適でないと思うのはどんな点か」「学習環境の快適性を高めるために何を期待するか」(IIのFA) に対する回答

学習環境の快適さについては、日本人学生の多くが校舎などの施設・設備の充実と美観、立地条件などをあげている。留学生の中にもこうした回答は多いが、日本人学生に見られない回答として「少人数の授業」「朝霞の図書館がいい」などもある。

また、学習環境が快適でないと思う点については、日本人学生は「キャンパスの中での移動が不便」「エレベーターが不足」など施設・設備面のほか、「カリキュラムの組み方—自由度が恐ろしく低い」「学部間の交流がまったくない」「途中で他のことに興味をもって授業をとろうとしても認めてくれない」などカリキュラム上の問題もあげている。一方留学生は「憩いの場がない」などの他「日本人学生と留学生との交流の場がほしい」などの回答もあった。

学習環境の快適性を高めるために何を期待するかに対しては日本人学生も留学生もともに「校舎間の移動がスムーズにできるような配置」「学生が自由に話し合える場所」「喫煙室の設置と校舎内の禁煙」「食堂の充実」など施設に関する要望が多かった。

以上のように、学習環境の快適性をどう高めていくかという点に関して学生に意見を求めるということは、いわば大学というコミュニティの住民に、その「住みごごち」を聞くことである。それゆえ、限られた予算と場所という制約を抱えながらこうした施設や設備に対する満足度を学生に聞くということは、学生の不満だけを露出ささせるのではという危惧もあるだろう。たしかに、調査によって得られた意見をすぐにフィードバックすることは難しい。

しかし、「こうして紙面（学内の学生メディアのことか―筆者注）以外に、このような意見を言える機関が必要。それが環境を快適にすることへとつながると思う」「モダンな建物をつくっても何にもなっていないことに疑問を抱くとか、学生の声を聞いてほしい」などの日本人学生の回答を見ると、学生は施設・設備の充実以前に、まず学生が発言する場所を求めていることがうかがえる。

こうしたアンケート調査だけではなく、学生の意見を聞き、それに対して回答をしていくというコミュニケーションの場を確保することが今後重要となろう。その意味でもこの調査の終了後は、調査結果を全学生や全教職員に知らせるなどして、学内の議論の活性化を促すことが必要と言える。

3-2-3-a 「時代に即し、先取りするような講義が聞ける科目」(3のSQ)「履修している外国語」(4のSQ)「利用したい外国語の教材や設備」(5のSQ)

これらの補助質問では、具体的な科目名、教材・機材名のみが回答されているため、それらの科目なり教材・機材がどのような点で役立つのか、またそれはなぜかを掘り下げるのが難しかった。これら授業にかかわる質問は別のカテゴリーに一括して独立させ、その背景を掘り下げた上で、カリキュラムや授業の改善へのつながりを得ることが必要である。そうした作業を心理学的観点から行った研究として、稲木哲郎(1996)「学生の印象に残った授業方法：調査レポート」をあげなければならない

い。稲木は、学生が授業方法がよかったと指摘した点を10の大カテゴリー、24の小カテゴリーに分け、そうした指摘点とそれらに潜んでいる人間としての基本的要求との関わりを明らかにしている。稲木の論文はその意味で、大学が自己点検・自己評価の一環としてなすべき授業評価のモデルを示しているといえよう。つまり、これからの授業評価は、単に学生が満足したかどうかの調査ではなく、大学教育の理念や学生の基本的要求をどう反映しえたか、また授業をつくっていく過程で学生の参加はどのように保障されたのかという観点からの調査が求められてくるのである。

3-2-3-a 「留学制度に対する要望」(6のSQ)「成績評価に何を望むか」(9のSQ)「履修要覧に何を望むか」(10のSQ)に対する回答

第一の留学制度に対する要望としては、日本人学生からは「もう少しPRが必要」など情報不足を指摘する声が目立ち、留学生からは「もっとたくさんの学生に機会を与えてほしい」などの要望があった。ここで学習活動の充実を測る指標のひとつとして留学制度を取り上げたのは、学生が大学教育の国際化をどのように感じ、どのように活用しようとしているかを明らかにするためであった。確かに、留学制度の充実は大学の国際化を推進する一つの要素である。しかし、これを享受できるのはあくまでほんの一握りの学生にすぎない。したがって、大学の自己評価の一環としては、これのみをとりあげるのではなく、大学内の国際交流や外国語教育のあり方、外国人数員の位置づけ、海外へのアクセスのしやすさ等と合わせて大学の国際化のあり方を点検する必要がある。

第二の成績評価に何を望むかについては、日本人学生、留学生とも「評価基準を明確にして学生にそれを明示してほしい」「授業初日に採点基準を成文化してほしい」など評価の透明性を望む声が多い。たしかに、評価を透明にしてすべての学生にわかりやすくするのは、各授業を担当する教員の責任である。しかし、問題の所在はそれだけではない。なぜな

ら評価は、目標に照らして到達したかどうかを判断するものであるから、まず学生に対して目標やシラバス、授業方法が明確にされていることが前提である。その上で、目標やシラバス、授業方法が学生にとって適切でないときには柔軟に改善され、それに合わせて評価基準も変更されるのである。つまり、評価の透明性を確保するということは、コースデザインのあるあらゆる場面で学生の参加を必要とするということであり、そうしたコースデザインへの参加についても学生の意識を問うような質問項目が今後必要であろう。

第三の履修要覧に何を望むかについては、日本人学生、留学生ともに「もっとわかりやすく」「もっと見やすく」「年間の講義スケジュールを詳しく」などの回答が多い。確かに、ある意味で履修要覧は、学ぶ場を提供する大学から学生への説明書とも契約書とも言える。しかし一方で、授業はすでに出来上がった知識の伝達ではないのだから単なる商品ではない。むしろ、学生と教師が一体となって創る共同作業であり、その意味で学生の参加を促せば促すほど授業が最初の説明書どおりには進行しない。したがって「履修要覧に何を望むか」という質問だけでは、学生をますます受け身な消費者にしてしまう危険性をはらんでいた。

3-2-3-b 「学習活動の充実に役立っている要因」「学習活動の障害になっている要因」
「学習活動を高めるために何を期待し、目標にしますか」(ⅢのFA)に対する回答

第一の「学習活動の充実に役立っている要因」に対しては、日本人学生も留学生もともに大学側の要因として「先生方が親しみやすく、質問に十分に応えて下さる」「先生と学生とのコミュニケーション」をあげる回答が多い。また学生側の要因としては「同じ目的をもって学習する友人が周囲にいること」「自覚して積極的に勉強すること」などをあげる回答もある。

第二の「学習活動の障害になっている要因」に対しては、日本人学生

も留学生とともに大学側の要因として「教師の熱意のない姿勢」が最も多く、つぎに「ゼミや講義の人数が多すぎる」「科目が選べない」「聴きたい講義がとれない」などの回答が多い。学生側の要因としては、学生の「やる気のなさ」「授業中の私語」が特に多かった。

第三の「学習活動を高めるために何を期待し、目標にしますか」に対する回答としては日本人学生、留学生とも大学側の要因として「授業内容の充実」「科目選択の自由」をあげる者が最も多く、つぎに「先生と学生とのコミュニケーション」を望む声も複数見られた。中には「もっと学生の意見が聞けるように目安箱設置を」「FEED BACK SYSTEMの実現」という意見もあり、学生が学習活動の充実のために発言する場を求めていることもうかがえる。また学生側の要因としては、日本人学生、留学生ともに「目標をもつこと」「しっかりした自己認識」「授業に対する積極的な参加」などをあげている。

これらの自由記述質問では、学習活動の充実を支え、または阻害し、今後学習活動を促進するための方法を問うているが、ここでは他の項目と違って大学側の要因と学生側の要因とを分けて記述するという試みをとった。この試みは、学生に自らの学習姿勢を振り返り、自覚を促すという意味では一応成功している。たとえば、「幅広い教養と基礎力を身につけ目標をもって学んでいきたい。それは政治・経済・国際関係・環境問題など人間・社会にかかわるあらゆる事象を正しく知り、共感的に理解し、主体的に行動できる人間になることである。」などの回答はそうした成果である。しかしながら一方で、こうした回答はごくわずかで、多くは「積極的に授業に参加する」など抽象的な表現にとどまっている。つまり、勉強の必要性を説く前に、なぜ人生のこの時期に大学という場で学ぶのか、学ぶことによって自分はどのように変わりたいと思っているのかを、もっと学生自身の人生観、価値観にまで掘り下げて質問する必要があったのではないかと見えてきたとき、人はどの

ような場でも学び続けることができる。また、青年にとっての大学とはそれを追究する場だと言っても過言ではないだろう。(以上担当：斎藤)

3-2-4-a 「あなたのキャンパスライフは充実していると思いますか」のSQの回答
(3-2-4～3-2-7までは担当：石垣)

自由記述回答を求めたのは、「読んだことのある広報誌」(7のSQ)、「他大学との交流」(9のSQ)、「意見表明の場や組織の有無」(13のSQ)である。7のSQは、大学の意思や活動を学生に伝えるために大学が発信する情報がどのように受け止められているかを知るための設問であるが、大学の情報誌があまり知られていない結果が出た。その一方で、KANKANなど学生による情報誌がかなり良く読まれていて、13のSQの「意見表明の場」の例としても挙げられている。9のSQではサークル活動を通じての大学間交流が最も多い。学園祭や生協学生委員会、コンパなどの例もあるがサークルに入っていない場合は交流の機会は少ないと思われる。回答の記述から交流が望まれているのが分かる。どのような交流が望まれるのか具体案を求める設問があれば、学生が他大学との交流に求める内容がはっきり示されたと思う。13のSQの回答では意見表明の場が無いと感じている者が圧倒的に多い。KANKANを挙げた例を記したが、このアンケートも例として挙げられている。ここで学生が言う「意見表明の場や組織」というのは、少なくとも公式に大学に対して何か言える場を確保する、全く意見表明の場外にある現在の状況を改善する、ということと考えられる。意見の表明は意見の反映ないし実現と切り離して考えることはできない。従って、この問いはどのような場や組織なのかを明確にすることに繋がる問いである。ここではSQとして扱ったが、キャンパスライフを真に充実したものにしようとするとき、検討すべき大きな課題となるものである。

3-2-4-b 「あなたのキャンパスライフは充実していると思いますか」のFAの回答

FA1とFA2は、それぞれキャンパスライフの充実に役立つ要因と障

害になる要因は何かという設問である。回答は次の3種に分類することができる。1つは立地条件や自由に過ごせるスペース、2はサークル活動などを通じての交流、3は授業である。FA3の回答には、「学生自身の積極性・意識」という意見が「自己表現を促し、主体的にキャンパスライフを楽しむ」要件として最も多く挙げられた。設備やサークル活動の支援がそれに次ぐ。FA3は、設問自体が学生の姿勢を問うニュアンスを持っているために、このような回答が多く出たと思われる。このことは充実感は学生の主体的参加の姿勢と関係すると強く自覚されていることを示し、このような自覚が期待や要望の内容を具体的なものに行っている。サークルの部屋、大学との定期的意見交換、少人数制の授業、交流（他大学と、教員と、外国と）などが挙げられている。4のSQを補うものとして有効な回答が得られた。更に、学生が何を最も必要な条件と考えているかを明確にする必要があろう。

3-2-5-a 「卒業後の進路選択に対する大学の支援」のSQの回答

この項目の質問は、卒業後の進路選択支援として大学が提供しているものの中で、諸資格の取得のための講座や進路指導など直接卒業後の活動に結びつく支援と、学生自身が在学中に主体的に身に付けて自らの進路を決定していく要因との2種の質問に分けられる。前者は「取得を希望する資格」（1のSQ）「就職指導」（2のSQ）「就職適性テスト」（8のSQ）「進学指導」（9のSQ）で、後者は「学生生活で得たもの」（5のSQ）「他人に負けない能力・特性」（6のSQ）の質問である。前者については、1のSQの回答について現在取得中の諸資格の名称が数多く挙げられているが、就職指導、就職適性テストについては役立っているという積極的な回答は非常に少ない。しかしそれはアンケート回答者の中の1、2年生が未だ卒業後を考える状況にないことによるのが、記述内容から分かる。正確なデータを得るためにはこの質問の調査対象を限る必要があろう。後者については、日本人学生と留学生の間にはかなりは

っきりした違いが出ている。5のSQでは、日本人学生の場合は学生生活で得たものを就職に役立つという観点から捉えているのは3例に過ぎず、「人間関係」「協調性」「自己を高める」「自己表現」など、人格的成熟を目標としている者が多い。留学生は「日本語」「英語」「情報処理」など実際に活用できる技能を挙げる者が多い。しかし、「自信を持つ」「考え方の成熟」を挙げている者も1例ずつある。日本人学生が大学生活の4年間を一種の猶予期間と考え、個人としての自分自身を追求することに大きな比重がかかっていることが分かる。6のSQでは、身に付けたいものとして「他人に負けない何か」と聞いているのに対して、日本人学生の約半数が、「個性的自分」「社会性・経験」など人と成りに関する「何か」を挙げていて、果たして就職を意識して得ているものがあるのかと疑問を示す回答が一例あった。留学生はここでも「語学力」「専門知識」「簿記・情報処理」などを挙げるものが大多数である。5のSQと6のSQの回答から、大学生活全般に対する留学生と日本人学生の位置付けの違いが得られたのは、この項の予測を越えた結果であった。回答はこの調査要因より〔Ⅶ. 大学生としてのあなた自身についてお聞きします〕の質問に関わりが深い内容となっている。整理し、Ⅶのカテゴリーでの質問とする方が適当であろう。

3-2-5-b 「卒業後の進路選択に対する大学の支援」のFAの回答

FAでは、進路選択の支援体制についての総合的な意見が述べられている。支援体制を阻害する要因と充実するために必要とされる要因は、「職員の対応」「情報の量と新しさ」「大学の知名度」など就職に関する要件と仲介する職員の対応に集中している。特に職員の対応についての批判は厳しい。事実を反映しているのであれば、なぜそのようなことが起こるのか、またそのように受け取られる状況があるのかを明らかにする必要がある。日本人学生の回答の中に、OBとのつながりをもっと深くすべきだというのがあり、留学生の回答には、先輩と接触する機会が少

ないというのがあった。これはQ 7－卒業後、後輩や仲間のために校友会活動をしたい－の設問に対応する問題である。留学生は在学生の連合会を持ち、母国の東洋大学校友会に繋げていこうとする意識は強い。留学という特別の状況が日本人学生より強い同窓意識を作る条件となっているのは確かであるが、日本人学生にとっても、母校の絆が、卒業後の社会活動を豊かなものにする契機となることは非常に望ましいことであり、進路選択の場において、学生の主体的活動の蓄積が生かされるところとなるに違いない。Q 8のSQにさまざまな分野で活躍する校友の名を挙げて選択させるなどの工夫が必要であろう。それは「活躍」に対する評価基準を学生自身が見直すことにもなる。

3-2-6-a 「東洋大学の教員や職員に対するあなたの意見をお聞かせ下さい」のSQの回答

「信頼できる教員」(1のSQ)、「刺激を受けた教員」(2のSQ)、「教育熱心な教員」(3のSQ)から、学生がイメージするそれぞれの教員の姿を見よう。代表的な回答の例を見ると「信頼できる教員」では、相談にのってくれる、学生の意見をよく聞く、学生の身になって考える、人間味がある、などの人間的側面を挙げる回答が3/4を占める。視野が広い、広い知識、熱心な授業などの知的側面も信頼の要件に入っているが、全体の約1/4である。「教育熱心な教員」については、一方的講義をしない、理解させようと努力する、遅刻休講早退がない、授業外でも教育的指導をする、授業内容に工夫があるなど、学生の顔を常に意識した対応が熱心さの要件として第一に挙げられている。豊かな学識、研究熱心、厳しいが納得のいく授業をする先生などの回答がそれに次ぐ。2のSQ「刺激を受けた教員」については、回答の内容が1のSQと3のSQとに分かれて吸収されたと思われ、特徴ある回答は得られなかった。

3-2-6-b 「東洋大学の教員や職員に対するあなたの意見をお聞かせ下さい」のFA
1、FA 2 の回答

「教員を尊敬する理由」(FA 1)「教員を好ましくないと思う理由」(FA 2)の回答は数の上においても、その指摘の多様さにおいても際立っている。FA 1 の回答はQ 1 とQ 3 の回答にかさなるものもあるが、記述はより細かく具体的で実感が込められている。「教員を尊敬する理由」は「知識が豊富」「研究熱心」「良い講義」「人間的魅力」「学生の立場に立つことができる」などを拾うことができるが、それは尊敬する理由の一側面に過ぎず、「知識が豊富」であることは同時に多角的に物を見ることができ、判断が柔軟であるということに裏付けられて学生の評価を得ている。「研究熱心」は、講義の良さに関連付けられる。また、「良い講義」は教員が自分の価値観を授業で伝えようとし、講義は計画的で学生と共に学習する姿勢があることなどがその内容となっている。「学生の立場に立つことができる」教員については、話し合えると同時に厳しい指導が評価されている。そしてそれらの要素が、包括的に人間的魅力に支えられるものであることが回答から理解される。「教員を好ましくないと思う理由」(FA 2)について、指摘される問題はほぼ5種に分けられる。それは「授業内容」「授業姿勢」「教育方法」「人間的資質」「熱意」である。日本人学生の回答に「学生の自主性をもっと尊重して欲しい」があり、留学生の回答に「学生の自尊心とプライバシーも尊重してほしい」というのがある。「好ましくない教員」というとき、学生はまず教員との間に基本的な人間関係が築かれないことを問題とする。尊敬する教員のイメージの中に、親切である、丁寧である、そして挨拶をしてくれるなどが具体的例としてあるが、「好ましくない教員」は、相手を尊重し対等に遇する関係を学生との間に持とうとしないという印象を強く与えている。それが、授業内容や進め方、方法に表れれば、一方的で理解させようという熱意がなく、質問をしにくいなどの指摘となる。FA 1 と FA 2 の回答

を見ると、学生がイメージする良い教員は、学識が広く深いだけでなく、なによりも学生を対等に遇し自らの経験を大切にしながら教育することを楽しむ人となる。それは、学生の心の中に常に期待としてある授業参加の意欲を呼び覚ます人でもあろう。この自由記述回答は、教員に対する満足、不満足を学生の主観的判断の結果にとどめず、大学の教育内容の充実と活性化のための課題としてさまざまな角度から検討する必要があることを示唆している。

3-2-6-b' 「東洋大学の教員や職員に対するあなたの意見をお聞かせ下さい」のFA3の回答

教員に対する要望は魅力ある講義を期待するが最も多い。講義の計画性、教え方など教育方法の面での要望が目立つことは、大学生の層の大衆化が一層進み、大学に期待する教育内容が以前とは異なってきているにもかかわらず、その実態に大学教育が十分に対応していないことを窺わせるものである。職員に対する要望は学生との応対、態度に批判が集中しているのが特徴的である。「官僚的」「高圧的」「横柄」「お役所的」などの言葉で表されている。しかし留学生の回答には、学生課の職員に対する感謝の言葉が見られる。個々の職員の努力と誠意が全体として生かされていないということであろう。しかし、このアンケートではどこに問題があるのかを探るヒントになるようなものは得られなかった。

3-2-7-a 「大学生としてのあなた自身にお聞きます（受講姿勢）」のSQの回答

この調査項目は、学生自身が所属する大学にどう関わっているかを問い、その関わり方如何と大学評価との関係を見ようとするものである。評価結果は対象が同じであっても評価する側の在り方によって常に変化する。大学を評価する場合には、学生の学習意欲や生活態度が影響する。学習意欲が高く積極的な学生は問題を厳しく指摘できるし、また評価すべきものを的確に見ることができるはずだからである。

「欠席の理由」（1のSQ）、「授業をよく聞かない理由」（2のSQ）、

「図書館を利用しない理由」(5のSQ)、「勉強している専門知識」(6のSQ)について分析すると、1のSQの回答は、欠席理由が2種類に分かれる。1つは学生側に起因するもの、もう1つは授業内容に原因するものである。ここでは日本人学生と留学生の間に顕著な違いが見られた。それは留学生の欠席理由に病気がかなりの割合を占めることである。寝坊も、アルバイトで疲れてという理由が書かれていた。私費留学生の不安定な経済条件を示していると言えよう。2のSQでは講義がつまらないからが最も多い。しかし、聞こえないがかなりあり、分からないが、日本人学生、留学生とも多いことが目立つ。6のSQでは、「専門知識」と受けとめている内容は多様で、専攻、資格などに関係なく興味を持って追求している対象が挙げられていて、生活の幅を感じさせる。

3-2-7-b 「大学生としてのあなた自身にお聞きます(受講姿勢)」のFA 1、「自己評価を高める要因」、FA 2、「自己評価を低める原因」、FA 3、「自分を高めるためにしていること」の回答

FA 1については日本人学生も留学生も「目的意識を持つこと」と共通している。これと表裏をなす質問FA 2については、「ダラダラ怠ける」「無責任」「友だちと群れる」など、流される生活に対する自戒が見える。FA 3では、日本人学生は「積極的に体験する」「資格を取る」が回答の上位2位を占める。留学生は「幅広い人間」「専門を身につける」が同数である。日本人学生の「体験」、留学生の「幅広い人間」の内容には、具体例が数多く挙げられ、学生生活を主体的に充実したものにしていこうとする姿勢が明瞭に表れている。(以上担当：石垣)

3-2-8 総合評価(後述するように、各要因の総合評価として機能していないので、考察は省略する。)

3-2-9 予備調査そのものに対する意見(項目IX)の回答結果と考察(3-2-9～まとめまでは担当：杉山)

典型的な意見として、「調査だけでなく、結果を改革に反映させて欲し

い」、「実際に変わらなければ意味がないので、少数意見にも耳を傾けて欲しい」と調査結果を実際に役立てることを求める意見。「結果を公表して欲しい」「よい学生生活のために、何がどうなったらいいのか、考えることに役立つことを望む」「授業・教員についての意見を言うところが具体的に見当たらない」ので、現在の学生がどのような意識を持っているか、調査結果の詳しい公表を期待する意見。次に、質問方法や項目に対する提案や意見として、「質問の意図が分かりにくい項目がある」「項目数が多過ぎる」「自由記述の部分が多く負担に感じた」等の指摘。その他として、「教師にもアンケートする方がよい」等の意見があった。この項目については、日本人学生からの回答は48と多く、且つ詳しい記述が多かった。留学生からの回答は14と少なく、短かったのは自由記述回答に対する、留学生の言語の壁が影響したと思われる。留学生の意見を汲み上げる際に、考慮しなければならない課題であろう。

この調査そのものに対する意見として、結果の公表と、調査だけに終わらせず大学改革に反映させて欲しいとの意見は当然であり、われわれの研究目的も、改革議論の活性化と改革の実行にある。そして、改革議論には学生を含めることが不可欠であるにもかかわらず、学生は、意見の反映以前に、意見を言う場すらないと感じている。これは、学問的根拠を示して自説を主張することを教育目的としている大学としては是非とも早急に改革せねばならない点であろう。改革の実施には、教員が授業を通じて個人で為しうることと、組織や制度改革が不可欠な改革とを分類する必要がある。

以上を踏まえて、本研究では、第1に、調査結果の公表を求める意見に対しては個人名や、個々の授業に対する意見部分を削除した上で、自由記述回答を公表し、教職員や学生間の相互理解の一助にしたいと考え

自由記述回答の結果を入手希望の方は井上門了学術研究センターまでお問い合わせ下さい。

ている。第2に、結果を改革に反映させて欲しいとの要望については、今回は調査票の修正、変更を目的とした予備調査であり、本調査をまとめる段階で、われわれの視点からの改革提案を盛り込んだ報告書をまとめたいと考えている。第3に、自由記述項目が多く、記入に時間がかかるとの指摘については、本調査票作成の際に検討したい。

3-3 多変量解析に基づく回答構造の分析から（担当：杉山）

今回の分析の目的は大学評価項目全体の相互関係や構造を知り、項目間の相互関係を説明するのに必要な要因の性質や数を探索的に明らかにすることであった。それによって、調査票の構成の際に立てた枠組み（仮説）を、対象者の回答から検討し、本調査においてより適切な調査枠組み（因子）と、質問項目を選ぶことが目的である。従って、多変量解析のうちの因子分析法を用いた。分析は大学評価60項目を対象として、因子数、回転法を変えて様々に分析したが、固有値の差と累積寄与率から判断して5因子とし、今回は予備調査であり、算出された係数の意味の理解し易さから直交回転を選んだ。次に因子分析結果を表1に示す。

表から、第1因子は「大学には学生が意見を表明できる場や組織がある」「大学で新しくできた友達がたくさんいる」「他大学との大学間交流の機会がある」等に因子負荷が高く、キャンパスライフの充実度因子と命名した。第2因子は「先輩の就職先に魅力的な会社や組織がある」「就職適性テストは進路選択に役立つ」「資格取得や検定試験の支援体制は充実している」等に因子負荷が高く、卒業後の進路選択支援・指導因子と命名した。第3因子は「シンボルとなるような建造物やモニュメントがある」「ビデオやOHP等の教育設備は整っている」「スポーツや健康増進施設は整っている」等に因子負荷が高く、キャンパスや教育施設の充実度因子と命名した。第4因子は「留学制度は利用しやすく、充実している」「科目選択の自由度が多い」「外国語の学習教材や設備は自由に利

用できる」等に因子負荷が高く、カリキュラムの内容や履修制度の充実度因子と命名した。第5因子は「所属する学部には特色や個性がある」「歴史を感じさせる伝統がある」「校風に魅力を感じる」などに因子負荷が高く、大学と教員に対するイメージ因子といずれも仮に命名した。

予備調査の枠組みと因子分析結果とを比較すると、①第1因子（キャンパスライフの充実度）は調査枠組みの学生生活要因と、教職員要因の内の特に職員の特質についての項目で構成されている。②第2因子（卒業後の進路選択支援・指導）は調査枠組みの進路指導要因にほぼ対応する。③第3因子（キャンパスや教育施設の充実度）は調査枠組みの物質的要因にほぼ対応する。④第4因子（カリキュラムの内容や履修制度の充実度）は調査枠組みのカリキュラム要因の内の、特に履修制度や講義内容にかかわる項目で構成されている。⑤第5因子（大学と教員に対するイメージ）は心理的要因の内の、特に大学の校風や伝統、学部の特色と、教職員要因の内の教育熱心などの教員の特質や姿勢に関する項目で構成されている。従って、大学評価枠組みの6要因が5因子となった理由は、教職員要因が学生生活要因と大学イメージに分かれてしまい、独立した因子を構成しなかったことによる。

以上の結果から、本調査に際しては①大学評価項目として重要な教職員要因を因子として独立させるためには、質問の追加と変更が必要である。②総合評価が各要因の総合的判断の指標となっていなかった（総合評価項目を加えた因子分析結果は省略する）ので、質問方法や設問位置の変更が必要である。

4 まとめ

今回は予備調査であり、調査票の項目選択と質問項目の表現の検討が目的であった。執筆スタイルは異なるが、それぞれが担当部分で、研究視点ないし仮説を示した上で、考察や提案を行っており、その中で意は

尽くされていると考える。従って、ここでは各部分で触れられていない、2、3の点について記述してまとめに変えたい。第1に、本論文では主体的な自らの判断基準を持つことの意味を強調した。それでは、社会的知名度とか、日東駒専や偏差値によるランクづけのようなマスコミによって流布されている評価とは何なのかについても、本調査の考察においては言及したいと考えている。第2に、今回は、項目検討を目的としたために、評定項目と自由記述項目を別々に検討した。その結果、自由記述項目の大切さを認識することが出来た。本調査では自由記述項目はコード化されて、評定項目と一緒に統計解析されることになる。その際でも、今回のような自由記述項目の良さが反映できるようにしたいと考えている。第3に、この調査そのものに対する意見にあったように、調査結果の公表と改革への反映は忘れてはいけない調査の原点と考えている。この調査の目的も最終的にはそこにある。本調査はそのような観点からまとめることになる。

【参考文献】

- 太田勇 1992 講義評価の効用と限界 井上円了センター年報 第1号 214-191.
- 藤埴智一 1989 留学生からみた大学授業 片岡徳雄・喜多村和之(編)『大学授業の研究』 玉川大学出版部
- 岩田寿美子・萩原滋 1988 『日本で学ぶ留学生—社会心理学的分析—』 勁草書房
- D. リースマン (著) 喜多村和之他 (訳) 1986 『高等教育論—学生消費者主義時代の大学—』 玉川大学出版部
- 杉山憲司・柴田真人 1989 大学生・浪人生・高校生の学習実態と学習観の比較 東洋大学 児童相談研究 第8号
- 渡辺文夫(編著) 1995 『異文化接触の心理学』 川島書店
- リクルート 1992 在学生による大学別満足度調査 リクルート・カレッジマネジメント 52号
- 天野郁夫 1994 『大学—変革の時代』 東京大学出版会

- 喜多村和之（編） 1988 『大学教育とは何か』 玉川大学出版部
- 有本章 1989 外国の大学授業－FD／SDの動向と実態 片岡徳雄・喜多村和之（編）『大学授業の研究』 玉川大学出版部
- 稲木哲郎 1994 東洋大学社会学部生による授業評価の実例とその位置づけ 東洋大学社会学部紀要 32-1, 167-210.
- 稲木哲郎 1995 東洋大学社会学部生の大学生活に関する意識：調査レポート－1983年度と1992年度の比較－ 東洋大学社会学部紀要 33-1, 15-83.
- 社会学部留学生委員会（世話人 喜多川豊字） 1996 東洋大学社会学部留学生生活実態・意識調査 社会学部留学生と語ろう会報告（教務部教務3課）広報課 1996 留学生特集：身近に、国際交流。東洋大学報 第143号 2-5.
- 稲木哲郎 1996 学生の印象に残った授業方法：調査レポート 東洋大学社会学部紀要 第33-2号、51-84.

表1 大学に対する評価要因Ⅰ～要因Ⅵの60項目の5因子回転後の因子負荷量（主成分分析法，VARIMAX回転）

因子1		因子2	因子3	因子4	因子5
要 素		因 子	因 子	因 子	荷 荷
因子1. キャンパスライフの充実度					
IV	13. 大学には学生が意見を表明できる場や組織がある	.74154	.20042	.10213	.25499
VI	5. 学生の立場で相談にのってくれる職員が多い	.73835	.14996	.13463	.47982
IV	8. 大学で新しくできた友達がたくさんいる	.70177	-.07450	-.06514	-.07130
IV	9. 他大学との大学間交流の機会がある	.69516	.26087	.17943	-.01961
VI	7. 知識や経験が豊富で、頼りになる職員が多い	.68810	.20236	.20860	.44128
IV	6. 下宿やアルバイトの紹介数や内容は十分である	.68340	.10471	.00039	.26124
IV	2. 大学には、親友と呼べるような親しい友達がいる	.67975	.00121	.06995	-.18989
IV	3. 大学の食堂には気に入ったメニューがある	.64660	.07391	.00645	.12526
IV	11. 奨学金制度は充実している	.61623	.04915	.07316	.00678
VI	6. 公平で公正な職員が多い	.61163	.28479	.31796	.36928
VI	1. 何かにつけ相談にのってくれる、信頼できる教員が多い	.57357	.41729	-.03308	.35424
VI	4. 自分の研究を生き生きと語る、研究熱心な教員が多い	.56356	.26369	.04528	.23717
12.	大学はクラブ活動を積極的に支援している	.54831	.40981	.05677	.10969
IV	7. 学生に対する大学の広報活動は充実している	.51892	.13107	.20312	.40547
IV	4. 授業以外に、教員とのコミュニケーションがある	.50667	.04582	.00665	.00292
IV	1. サークルやクラブ活動に積極的に参加している	.49867	.15733	-.16752	.23133
IV	5. 大学祭では、東洋大生としての一体感が感じられる	.49545	.26783	.03410	.07845
VI	8. 指導内容が的確で、判断に困ったとき頼れる職員が多い	.48964	.30182	.35835	.42258
IV	10. 合宿などを伴う活動には積極的に参加している	.47751	.22720	-.09929	-.25754
III	8. 授業の中で、教員は学生との接点を常に求めている	.45066	.02848	-.01818	.39395
因子2. 卒業後の進路選択支援・指導					
V	3. 先輩の就職先に魅力的な会社や組織がある	.10875	.78550	.17025	.04515
V	8. 就職適性テストは進路の選択に役立つ	.30085	.77746	.12992	.11812

V	1. 資格取得や検定試験の支援体制は充実している	22660	.77711	.20775	.13591	-.01658
V	2. 大学の就職指導は頼りになる	.33313	.75255	.13480	.11852	-.06289
V	9. 大学院への進学指導は十分おこなわれている	.37924	.73100	.12803	.11081	-.04320
V	6. 卒業までの大学教育で、他人に負けない何かを身につけた	-.02026	.71622	.00601	-.01940	.19288
V	7. 卒業後、先輩や仲間のために校友会活動をしたい	.01303	.71513	.16405	.16957	.37502
V	5. 就職に際して、学生生活で得たものは大いに役立つ	.21583	.70005	-.07535	.07228	.22852
V	10. キャリアのつとして大学を位置づけている	-.01776	.66651	.12938	.22043	.08415
V	4. 就職に際して、所属学部や学科は意味がある	.17904	.63215	.02995	.15186	.22653

因子3. キャンパスや校舎・教育施設の充実度

II	4. シンボルとなるような建造物やモニュメントがある	.01662	.09856	.79195	-.03441	.05932
II	7. ビデオやOHP等の教育設備は整っている	.15777	.18278	.72102	.31092	-.19093
II	11. スポーツや健康増進施設は整っている	.23666	.22579	.71368	.05910	-.06422
II	9. パソコンなどの情報機器は使いやすい	.02179	.26113	.68894	.21607	-.07547
II	6. 校舎や研究施設は整っている	.09330	.09844	.65487	.38935	-.06505
II	8. 図書館の蔵書や閲覧室は使いやすい	.01769	-.09207	.63512	.08068	.30672
II	3. 憩いの場所となる緑が確保されている	-.02637	-.04683	.62040	-.07243	.16141
II	5. 思索を巡らし、自由に話し合える空間がある	-.15332	-.03257	.60858	.16807	.19271
II	1. キャンパスとしての立地や周辺環境はよい	.07811	.02928	.59471	.40049	.07669
II	10. 寮やセミナーハウスなどの校外施設は整っている	.10856	.13096	.55193	.24136	-.19021

因子4. カリキュラムの内容や履修制度の充実度

III	6. 留学制度は利用しやすい、充実している	.15558	.26164	.05422	.68871	.00287
III	7. 科目選択の自由度が多い	.02370	.03339	.08789	.62453	.14106
III	5. 外国語の学習教材や設備は自由に利用できる	.15430	.09632	.14557	.58848	-.03730
III	10. 履修要覧は充実していて、役に立つ	.01591	-.03466	.17956	.57514	.01145
III	4. 外国語教育（留学生は日本語教育）の内容は充実している	.07063	.14288	.16718	.48084	.14459
III	3. 時代に即し、先取りするような講義が聴ける	.03106	.04113	.02517	.46245	.20600

因子5. 大学と教員に対するイメージ

I	6. 所属する学部には特色や個性がある	.13915	-.03575	-.08453	.08165	因子 5
I	2. 歴史を感じさせる伝統がある	.10430	.07146	.01374	-.00218	.67114
I	5. 校風に魅力を感じる	.01469	-.01883	.11317	.22246	.63083
VI	3. 教えることが好きで、教育熱心な教員が多い	.33586	.13306	.18414	.38116	.61335
VI	2. 生き方や哲学に、大いに刺激を受ける教員が多い	.27455	.34553	-.07281	-.01888	.60751
I	7. 教員で社会的に活躍している人が多い	-.03451	.07826	-.00944	.42510	.42260
					.41747	

その他. (4以上の負荷を示す因子が見あたらなかった項目)

I	1. 「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神に魅力を感じる	.01390	.17360	.12144	-.03024	.24158
I	3. アカデミックな雰囲気がある	.05591	.09583	.22864	.25168	.39818
I	4. 社会的評価は高い	.06638	.15496	.04468	.39654	.26443
I	8. 卒業生で活躍している人が多い	.02279	.09646	.28533	-.10098	.03444
II	2. 校舎への交通の便はよい	.14187	-.09418	.35315	.35008	.01126
III	1. 少人数のゼミに参加できる	.06008	.18723	.04509	.29367	.05116
III	2. 授業を通じて、教師との個人的接触ができる	.22718	.18081	-.12115	.36928	.33636
III	9. 成績評価法は分かりやすい	.31641	.28435	-.08513	.25769	.19822

固有値	14.8454	5.3394	3.9157	3.4790	2.4983
寄与率	24.7	8.9	6.5	5.8	4.2
累積寄与率	24.7	33.6	40.2	46.0	50.1

【調査票と単純集計結果】

「東洋大学における学生の意識と行動」

調査ご協力をお願い

私たちは、学生から見た東洋大学の現状とあるべき姿をとらえたいと思います。いうまでもなく、教員と学生は大学の構成員として、大学の問題を考え、よりよい大学を創る共通の課題を担っています。そこで、この調査は学生から見た東洋大学のイメージ、学習活動やキャンパスライフの充実度などについて、学生の意識と行動を明らかにし、大学改革の方向を探る一助にしたいと思います。

調査は、自由記述を求める質問に時間がかかると思いますが、よろしくご協力下さい。また、この調査そのものに対する意見覧を用意してあります。この調査に対する素直な意見もお寄せ下さい。

調査結果は全体としての傾向を知ることが目的で、個人にご迷惑をおかけすることはありません。

「東洋大学における学生の意識と行動」調査研究会

石垣貴千代

今田好彦

斎藤里美

杉山憲司

記入方法

1. 程度を聞いている質問には、5：非常にそう思う、4：ややそう思う、3：どちらでもない、2：あまりそう思わない、1：全くそう思わない、の中から、あなたの考えに一番当てはまる項目を1つ選び、その番号に○印をつけて下さい。
2. 自由記述を求めている項目には、自由に、具体的に記入して下さい。
3. 質問がありましたら、調査をお願いした先生か、調査補助の学生に聞いて下さい。

I. あなたは東洋大学に対してどんなイメージを持っていますか

	非常に そう 思う	やや そう 思う	どちら でも ない	あまり そう 思わない	全く そう 思わない
	5	4	3	2	1
	日本人学生		留学生		有意差
	平均(SD)		平均(SD)		
1. 「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神に魅力を感じる----	3.16(1.42)		3.25(1.16)		
2. 歴史を感じさせる伝統がある-----	2.97(1.37)		2.89(.99)		
3. アカデミックな雰囲気がある-----	2.30(1.23)		3.34(1.49)		<.00 * *
4. 社会的評価は高い-----	2.55(1.21)		2.95(.91)		<.06(*)
どんな評価ですか ()					
5. 校風に魅力を感じる-----	2.64(1.18)		2.75(.94)		
どんな校風ですか ()					
6. 所属する学部には特色や個性がある-----	3.09(1.23)		3.05(1.06)		
どんな特色や個性ですか ()					
7. 教員で社会的に活躍している人が多い-----	2.57(.98)		2.91(.91)		<.07(*)
どんな活躍ですか ()					
8. 卒業生で活躍している人が多い-----	2.39(1.00)		2.68(1.24)		
例えば、誰で、何をしている人ですか ()					

注) 平均値の差の検定は* *は1 %、*は5 %で有意差あり。(*)は10%で傾向あり。不等号は有意さの方向を示す。

9. 1～8の中から、大学のイメージを決定すると思われる重要な項目を3つあげて下さい。

1 番目に重要 ()、2 番目に重要 ()、3 番目に重要 ()

上記以外に、東洋大学のイメージアップにつながっている要素は何だと思いますか、自由に書いて下さい。

上記以外に、東洋大学のイメージダウンにつながっている要素は何だと思いますか、自由に書いて下さい。

これからの東洋大学のイメージアップに何を期待しますか。期待や要求を自由に書いて下さい。

II. あなたは校舎や施設に対してどう感じていますか

	非常に そう 思う	やや そう 思う	どちら でも ない	あまり そう 思わない	全く そう 思わない
	5	4	3	2	1
日本人学生 留 学 生					
	平均(SD)	平均(SD)			有意差
1. キャンパスとしての立地や周辺環境はよい-----	2.52(1.22)	3.36(1.45)			<.01 * *
2. 校舎への交通の便はよい-----	2.74(1.33)	2.80(1.71)			
3. 憩いの場所となる緑が確保されている-----	2.20(1.45)	3.14(1.55)			<.01 * *
4. シンボルとなるような建造物やモニュメントがある-----	2.10(1.27)	2.84(1.75)			<.02 * *
その建造物は何ですか ()					
5. 思索を巡らしたり、自由に話し合える空間がある-----	2.28(1.16)	3.23(1.43)			<.00 * *
利用している場所はどこですか ()					
6. 校舎や研究施設は整っている-----	2.75(1.33)	3.77(1.57)			<.00 * *
7. ビデオやOHP等の教育設備は整っている-----	2.75(1.33)	3.82(1.57)			<.00 * *
8. 図書館の蔵書や閲覧室は使いやすい-----	2.90(1.17)	3.98(1.55)			<.00 * *
9. パソコンなどの情報機器は使いやすい-----	2.93(1.28)	4.07(2.01)			<.00 * *
10. 寮やセミナーハウスなどの校外施設は整っている-----	3.28(1.73)	4.02(1.81)			<.03 * *
利用上の問題がありますか ()					
11. スポーツや健康増進施設は整っている-----	2.54(1.38)	3.70(1.64)			<.00 * *
利用上の問題がありますか ()					
12. 1～11のうち、学習環境の快適性を決定すると思われる重要な項目を3番まであげて下さい。					
1番目に重要 ()、2番目に重要 ()、3番目に重要 ()					

上記以外に、学習環境が快適だと思うのはどんな点ですか、自由に書いて下さい。

上記以外に、学習環境が快適でないと思うのはどんな点ですか、自由に書いて下さい。

学習環境の快適性を高めるために何を期待しますか。期待や要求があれば自由に書いて下さい。

Ⅲ. あなたの学習活動は充実していると思いますか

	非常に そう 思う	やや そう 思う	どちら でも ない	あまり そう 思わない	全く そう 思わない
	5	4	3	2	1
	日本人学生		留 学 生		有意差
	平均(SD)		平均(SD)		
1. 少人数のゼミに参加できる-----	3.07(1.81)		3.55(1.68)		
2. 授業を通じて、教師との個人的接触ができる-----	2.74(1.23)		3.00(1.43)		
3. 時代に即し、先取りするような講義が聴ける-----	2.46(1.09)		3.30(1.88)		<.01 * *
そのような科目があったら、科目名を書いて下さい ()					
4. 外国語教育(留学生は日本語教育)の内容は充実している-----	2.59(1.52)		4.18(1.39)		<.00 * *
履修している外国語を書いて下さい ()					
5. 外国語の学習教材や設備は自由に利用できる-----	2.33(1.70)		3.23(.99)		<.01 * *
利用したい教材や設備を書いて下さい ()					
6. 留学制度は利用しやすく、充実している-----	2.54(1.63)		3.50(1.66)		<.01 * *
留学制度に要望があれば書いて下さい ()					
7. 科目選択の自由度が多い-----	2.61(1.36)		3.30(1.39)		<.02 *
8. 授業の中で、教員は学生との接点を常に求めている-----	2.29(1.31)		2.80(1.07)		<.04 *
9. 成績評価法は分かりやすい-----	2.86(1.30)		3.25(1.87)		
成績評価に何を望みますか ()					
10. 履修要覧は充実していて、役に立つ-----	3.01(1.01)		3.75(.94)		<.00 * *
履修要覧に何を望みますか ()					
11. 1～10のうち、学習活動の充実度を評価する際に、重要な項目を3番まであげて下さい。 1番目に重要 (), 2番目に重要 (), 3番目に重要 ()					

上記以外に、学習活動の充実に役立っている要因は何ですか。大学側と学生側に分けて、自由に書いて下さい。

大学側

学生側

上記以外に、学習活動の障害になっている要因は何ですか。大学側と学生側に分けて、自由に書いて下さい。

大学側

学生側

学習活動を高めるために何を期待し、目標にしますか。大学側と学生側に分けて、自由に書いて下さい。

大学への期待

学生の目標

IV. あなたのキャンパスライフは充実していると思いますか

	非常に そう 思う	やや そう 思う	どちら でも ない	あまり そう 思わない	全く そう 思わない
	5	4	3	2	1
日本人学生 留 学 生					
	平均(SD)	平均(SD)			有意差
1. サークルやクラブ活動に積極的に参加している-----	3.26(1.66)	2.64(1.88)			>.07(*)
2. 大学には、親友と呼べるような親しい友達がいる-----	3.91(1.13)	3.32(1.48)			>.03*
3. 大学の食堂には気に入ったメニューがある-----	2.72(1.69)	2.70(1.52)			
4. 授業以外に、教員とのコミュニケーションがある-----	2.57(1.87)	2.95(1.71)			
5. 大学祭では、東洋大生としての一体感が感じられる-----	2.49(1.90)	2.91(1.92)			
6. 下宿やアルバイトの紹介数や内容は十分である-----	2.91(1.81)	2.77(1.90)			
7. 学生に対する大学の広報活動は充実している-----	2.70(1.87)	3.48(2.01)			<.04*
読んだことのある広報誌名などを書いて下さい ()					
8. 大学で新しくできた友達がたくさんいる-----	4.26(1.01)	3.20(1.58)			>.00**
9. 他大学との大学間交流の機会がある-----	2.19(1.65)	2.36(1.77)			
どのような交流か、具体的に書いて下さい ()					
10. 合宿などを伴う活動には積極的に参加している-----	3.33(1.76)	3.39(1.99)			
11. 奨学金制度は充実している-----	3.01(1.46)	3.36(1.88)			
12. 大学はクラブ活動を積極的に支援している-----	2.65(1.53)	3.14(1.73)			
13. 大学には学生が意見を表明できる場や組織がある-----	2.22(1.51)	2.66(1.77)			
場や組織があれば、具体的に書いて下さい ()					

14. 1～13のうち、キャンパスライフの充実度を評価する際に、重要な項目を3番まであげて下さい。

1番目に重要 (), 2番目に重要 (), 3番目に重要 ()

上記以外に、キャンパスライフの充実に役立っている要因は何ですか。自由に書いて下さい。

上記以外に、キャンパスライフを充実させる上で障害になっている要因は何ですか。自由に書いて下さい。

自己表現を促し、主体的にキャンパスライフを楽しむために何が必要ですか、期待や要求があれば書いて下さい。

V. 卒業後の進路選択について大学は十分な支援をしていると思いますか

	非常に そう 思う	やや そう 思う	どちら でも ない	あまり そう 思わない	全く そう 思わない
	5	4	3	2	1
	日本人学生		留学生		有意差
	平均(SD)		平均(SD)		
1. 資格取得や検定試験の支援体制は充実している-----	2.65(1.56)		3.77(2.26)		<.01 *
取得を希望している資格があれば書いて下さい ()					
2. 大学の就職指導は頼りになる-----	2.86(1.94)		3.86(2.56)		<.03 *
頼りになる指導内容を書いて下さい ()					
3. 先輩の就職先に魅力的な会社や組織がある-----	2.78(1.65)		3.64(2.45)		<.04 *
4. 就職に際して、所属学部や学科は意味がある-----	3.41(1.62)		4.18(1.94)		<.03 *
5. 就職に際して、学生生活で得たものは大いに役立つ-----	3.80(1.62)		4.20(2.08)		
得たものを具体的に書いて下さい ()					
6. 卒業までの大学教育で、他人に負けない何かを身につけたい-----	4.32(1.33)		4.91(1.65)		<.04 *
それは、どんなことですか ()					
7. 卒業後、後輩や仲間のために校友会活動をしたい-----	2.74(1.35)		4.34(1.82)		<.00 * *
8. 就職適性テストは進路の選択に役立つ-----	3.10(1.74)		4.16(2.24)		<.01 * *
就職適性テストについて要望があれば書いて下さい ()					
9. 大学院への進学指導は十分おこなわれている-----	2.80(1.91)		3.52(2.36)		<.08 (*)
進学指導について要望があれば書いて下さい ()					
10. キャリアの1つとして大学を位置づけている-----	3.36(1.49)		4.41(2.04)		<.01 * *
11. 1～10のうち、進路の支援体制の充実度を評価する際に、重要な項目を3番まであげて下さい。					
1番目に重要 (), 2番目に重要 (), 3番目に重要 ()					

上記以外に、進路の支援体制の充実に役立っている要因は何だと思いますか。自由に書いて下さい。

上記以外に、進路の支援体制を充実させる上で障害となっている要因は何ですか。自由に書いて下さい。

卒業後の進路の支援体制を充実させるために何を望みますか。期待や要求があれば自由に書いて下さい。

VI. 東洋大学の教員や職員に対するあなたの意見をお聞かせください

	非常に そう 思う	やや そう 思う	どちら でも ない	あまり そう 思わない	全く そう 思わない
	5	4	3	2	1
	日本人学生		留 学 生		
	平均(SD)		平均(SD)		有意差
1. 何かにつけ相談にのってくれる、信頼できる教員が多い-----	2.83(1.89)		2.91(1.29)		
信頼できる教員とはどんな教員ですか ()					
2. 生き方や哲学に、大いに刺激を受ける教員が多い-----	2.62(1.66)		2.98(1.33)		
今までに教員からどのような刺激を受けましたか ()					
3. 教えることが好きで、教育熱心な教員が多い-----	2.61(1.15)		3.32(1.34)		<.01 **
教育熱心な教員とはどのようなことをする教員ですか ()					
4. 自分の研究を生き生きと語る、研究熱心な教員が多い-----	2.96(1.29)		3.34(1.31)		
5. 学生の立場で相談にのってくれる職員が多い-----	2.25(1.54)		2.82(1.24)		<.04 **
6. 公平で公正な職員が多い-----	2.62(1.52)		3.59(1.44)		<.01 **
7. 知識や経験が豊富で、頼りになる職員が多い-----	2.51(1.47)		3.30(1.25)		<.01 **
8. 指導内容が的確で、判断に困ったとき頼れる職員が多い-----	2.39(1.24)		3.27(1.50)		<.01 **

9. 1～4のうち、あなたが先生として尊敬する教員はどのタイプですか、重要な項目を3番まであげて下さい。

1番目に重要 (), 2番目に重要 (), 3番目に重要 ()

10. 5～8のうち、あなたが職員として期待するのはどのタイプですか、重要な項目を3番まであげて下さい。

1番目に重要 (), 2番目に重要 (), 3番目に重要 ()

あなたが今、尊敬している教員を思い浮かべて、その教師を尊敬する理由を書いて下さい。

あなたにとって、あまり好ましくない教員を思い浮かべて、その理由を自由に書いて下さい。

上記以外に、教員や職員に何を期待しますか。教員と職員に分けて、期待や要求があれば自由に書いて下さい。

教員

職員

Ⅶ. 大学生としてのあなた自身についてお聞きします

非常に
そう
思う

やや
そう
思う

どちら
でも
ない

あまり
そう
思わない

全く
そう
思わない

5 — 4 — 3 — 2 — 1

日本人学生 留学生

平均(SD) 平均(SD) 有意差

1. 授業によく出席している----- 3.90(1.10) 4.45(1.11) <.01 **
授業が欠席がちになる理由は何ですか ()
2. 授業の内容をよく聞いている----- 3.59(.96) 3.98(1.15) <.06 (*)
よく聞かない場合の理由は何ですか ()
3. 問題意識を持って授業を聞き、自分の意見を持っている----- 3.35(1.19) 3.86(1.15) <.03 *
4. 教室の着席位置は、だいたい、前の方に座る----- 3.29(1.24) 4.57(1.09) <.00 **
5. 図書館をよく利用している----- 3.81(.97) 4.16(.99) <.07 (*)
あまり利用しない理由は何ですか ()
6. 専門的知識を身につけるために勉強している----- 3.59(1.32) 4.34(1.03) <.01 **
どんな専門知識が書いて下さい ()
7. 幅広い知識と教養を身につけるために勉強している----- 3.54(1.04) 4.34(1.06) <.00 **
8. さまざまな体験をするために努力している----- 3.57(1.01) 4.14(1.11) <.01 **
9. 色々な友達を作るために努力している----- 3.57(.98) 3.45(1.39)
10. 部活動や趣味のために多くの時間を使っている----- 4.03(1.20) 2.55(1.41) >.00 **

11. 1～10のうち、自分自身に対する課題や目標で重要な項目を3番まであげて下さい。

1番目に重要 (), 2番目に重要 (), 3番目に重要 ()

上記以外に、大学生としての自己評価を高める要因がありますか、自由に書いて下さい。

上記以外に、大学生としての自己評価を低める要因がありますか、自由に書いて下さい。

自分自身を高めるために何かしていますか。自分に課している目標や活動があれば自由に書いて下さい。

VIII. 総合的評価

	非常に そう 思う	やや そう 思う	どちら でも ない	あまり そう 思わない	全く そう 思わない
	5	4	3	2	1
日本人学生 留 学 生					
	平均(SD)	平均(SD)	有意差		
1. 東洋大学のイメージは良い-----	2.57(.99)	3.64(1.06)	<.00 * *		
2. 大学の校舎や施設は整備されている-----	2.61(1.09)	3.82(1.40)	<.00 * *		
3. あなたの大学での学習活動は充実している-----	3.13(1.01)	3.43(1.21)			
4. あなたのキャンパスライフは充実している-----	3.23(.93)	3.27(1.48)			
5. 卒業後の進路選択に十分な支援体制がある-----	2.58(1.59)	2.84(1.29)			
6. 教員には優れた人材が多い-----	2.94(1.26)	3.57(1.28)	<.02 *		
7. 職員には優れた人材が多い-----	2.28(.92)	3.55(1.42)	<.00 * *		
8. 東洋大学生は大学生として十分な努力をしている学生が多い-----	2.09(.88)	2.70(1.27)	<.01 * *		

IX. この調査に対する意見を何でも自由に書いて下さい。

X. 次にあなた自身について伺います。以下は、被調査者の特徴別の分析に利用させていただきます。

学科 (), 学年 (年), 性別 (男 女), 主に通っているキャンパス (白山 朝霞 川越)

職歴 (有 無)、 浪人経験 (有 無)、 家族を扶養する義務 (有 無)、 国籍 ()

年齢 (18～20歳 21～23歳 24～26歳 27～29歳 30歳代 40歳代 50歳代以上)、 既未婚 (既婚 未婚)

学費の負担割合 (家族(%) 自分(%) 奨学金(%) その他(%))

生活費の負担割合 (家族(%) 自分(%) 奨学金(%) その他(%))

これで終わります。貴重な時間を有り難うございました。